

問1 江戸幕府が結んだ日米修好通商条約が、なぜ「不平等条約」と呼ばれるのか、その制度上の理由を述べたものとして正しいものはどれですか。

(2025年 千葉公立入試 類似)

- |  |  |  |  |
|--|--|--|--|
| 1. 日本国内で罪を犯した外国人を、その国の領事が裁判する権利を日本側が認めていたから。 | 2. 日本側がアメリカに対して、一方的に最恵国待遇を与えることが定められていたから。 | 3. 日本が輸出品に対して自由に高い税率をかけ、アメリカの利益を損なう仕組みだったから。 | 4. アメリカの軍艦が日本の沿岸を自由に測量し、軍事基地を建設する権利を認めていたから。 |
|--|--|--|--|

問2 19世紀の日本の外交に関する年表において、1854年の日米和親条約による開港地に続いて、1858年に結ばれた条約によって新たに開港することが決められた場所の組み合わせはどれですか。 (2024年 宮城県公立入試 類似)

- |          |               |          |           |
|----------|---------------|----------|-----------|
| 1. 下田・箱館 | 2. 神奈川（横浜）・長崎 | 3. 門司・釜山 | 4. 鹿児島・那覇 |
|----------|---------------|----------|-----------|

問3 江戸時代末期、大老の井伊直弼が「安政の大獄」と呼ばれる大規模な弾圧を行った理由と、その結果についての説明として最も適切なものはどれですか。 (2016年 千葉県公立入試 類似)

- |  |  |   |  |
|--|--|---|--|
| 1. 無勅許での条約調印や将軍継嗣問題への反対派を排除しようとしたが、後に自身が暗殺される一因となった。 | 2. 文明開化による西洋化を推し進めるため、古い慣習を守ろうとする保守的な公家や武士を処罰した。 | 3. 廃藩置県を断行するために、土地や人民を管理していた各地の大名の権力を奪い、抵抗する者を処刑した。 | 4. キリスト教の布教を禁止する幕府の方針に背いた宣教師や信徒を、全国規模で厳しく取り締まった。 |
|--|--|---|--|

問4 アヘン戦争が起こった背景には、イギリス・清・インドの三か国間で行われていた「三角貿易」と呼ばれる仕組みがありました。当時の貿易の流れを正しく説明しているものはどれか、次の中から選びなさい。 (2026年 栃木公立入試 類似)

- |   |   |  |   |
|---|---|--|---|
| 1. イギリスがインドへ綿製品を、インドが清へアヘンを、清がイギリスへ茶や絹を売っていた。 | 2. 清がインドへ茶を、インドがイギリスへ綿製品を、イギリスが清へアヘンを売っていた。 | 3. イギリスが清へ工業製品を、清がインドへ茶を、インドがイギリスへ銀を売っていた。 | 4. インドが清へ綿製品を、清がイギリスへアヘンを、イギリスがインドへ茶を売っていた。 |
|---|---|--|---|

問5 1840年に発生したアヘン戦争において、清がイギリスに敗北したという知らせは、当時の江戸幕府に大きな衝撃を与えました。これを受けて幕府は、1825年に出された「外国船を見つけ次第攻撃する」という強硬な方針を改め、遭難した外国船に燃料や食料を分け与える方針を決定しました。この1842年に出された法令を何といいますか。 (2016年 高知公立入試 類似)

- |          |           |          |           |
|----------|-----------|----------|-----------|
| 1. 薪水給与令 | 2. 異国船打払令 | 3. 武家諸法度 | 4. 日米和親条約 |
|----------|-----------|----------|-----------|

問6 イギリスが清に対してアヘン戦争を仕掛ける背景となった、当時の貿易状況を説明した文として、最も適切なものはどれですか。 (2019年 佐賀公立入試 類似)

- |   |  |   |  |
|---|--|---|--|
| 1. イギリスが輸入する茶の代金として支払う銀が不足し、その回収のためにアヘンを密輸した。 | 2. イギリスが自国の工業製品を清に売るため、清の特産品であったアヘンの輸入を禁止しようとした。 | 3. 清がイギリスから綿織物を大量に輸入したため、貿易赤字に苦しんだイギリスが武力で市場を広げようとした。 | 4. 清がイギリスとの自由貿易を求めて開国を迫ったのに対し、自国産業を保護したいイギリスが拒否して開戦した。 |
|---|--|---|--|

問7 当時の貿易統計において、輸出額の約8割を生糸と茶が占めていた背景として、日本がどのような対応を行っていたと考えられますか。最も適切な説明を選びなさい。 (2024年 福井公立入試 類似)

- |   |   |   |   |
|---|---|---|---|
| 1. 欧米諸国で需要が高まっていた生糸を確保するため、農村では養蚕や製糸業が盛んになった。 | 2. 国内の絹織物需要を抑制するために、政府が国民に生糸のままでの販売を強制した。 | 3. イギリスから輸入した綿糸を国内で加工し、生糸として再輸出する加工貿易を推進した。 | 4. 海外から輸入された安価な生糸を横浜港で集積し、他国へ転売する中継貿易が中心であった。 |
|---|---|---|---|

問8 幕末の政治的な混乱を招いた「桜田門外の変」が起きた理由として、最も適切な説明を選びなさい。 (2022年 新潟県公立入試 類似)

- |   |  |  |  |
|---|--|--|--|
| 1. 異国船打払令を緩めた幕府が、外国船の日本近海への接近を許し、沿岸の警備が手薄になったことに武士たちが憤ったため。 | 2. 大老の井伊直弼が、天皇の許可（勅許）を得ないまま日米修好通商条約を締結し、反対派を安政の大獄で厳しく処罰したことに反発が高まったため。 | 3. 日米和親条約によって下田・函館の2港が開港された際、外国との貿易による物価高騰に苦しむ農民たちが幕府への不満を爆発させたため。 | 4. 将軍が政権を朝廷に返す大政奉還を表明したことに納得がいかない武士たちが、幕府を存続させるために実行に出たため。 |
|---|--|--|--|

問9 幕末の薩摩藩や肥前藩などにおいて、鉄を高熱で溶かすことで大砲などの強力な武器を自力で製造するために建設された施設を何といいますか。 (2024年 鹿児島県公立入試 類似)

- |        |          |       |        |
|--------|----------|-------|--------|
| 1. 反射炉 | 2. 富岡製糸場 | 3. 藩校 | 4. 造船所 |
|--------|----------|-------|--------|

問10 幕末期の長州藩において、松下村塾で学んだ伊藤博文などの志士たちが当初参加していた、「天皇を尊び、外国の勢力を排除しようとする」政治思想を何といいますか。 (2020年 和歌山公立入試 類似)

- |         |         |         |         |
|---------|---------|---------|---------|
| 1. 尊王攘夷 | 2. 公武合体 | 3. 和魂洋才 | 4. 文明開化 |
|---------|---------|---------|---------|

問11 19世紀、イギリスは中国（清）からの茶の輸入超過による銀の流出を防ぐため、植民地のインドを介した「三角貿易」の仕組みを整えました。この貿易において、イギリスの貿易赤字を解消するためにインドから中国へ密輸出され、のちにアヘン戦争の原因となった品物はどれですか。 (2023年 山口公立入試 類似)

- |        |        |      |        |
|--------|--------|------|--------|
| 1. アヘン | 2. 綿織物 | 3. 絹 | 4. 香辛料 |
|--------|--------|------|--------|

問12 日米修好通商条約に含まれる「関税自主権の欠如」が、当時の日本に与えた影響やその仕組みを説明したものとして、最も適切なものはどれですか。 (2020年 鳥取公立入試 類似)

- |  |  |   |   |
|--|--|---|---|
| 1. 自国の判断で輸入品に高い税率をかけることができず、安価な外国製品の流入から国内産業を守ることが難しくなった | 2. 外国政府が日本の輸出額を自由に管理できるようになり、日本国内の物資が極端に不足する事態を招いた | 3. 日本に入港するすべての外国船から徴収する税金をアメリカに支払う義務が生じ、国家財政が破綻した | 4. 日本国内で流通する貨幣の発行権を外国に譲り渡すことになり、幕府が経済政策を主導できなくなった |
|--|--|---|---|

## 答え合わせ・解説

問1	答え 1 日本国内で罪を犯した外国人を、その国の領事が裁判する権利を日本側が認めていたから。	不平等とされる最大の要因の一つは、領事裁判権（治外法権）の承認です。これにより、外国人が日本で犯罪を犯しても日本の法で裁くことができず、主権が侵害されている状態でした。もう一つの大きな要因は、関税自主権の欠如であり、日本が自国の産業を保護するために輸入品の税率を自由に決めることができなかった点が挙げられます。
問2	答え 2 神奈川（横浜）・長崎	日米修好通商条約では、貿易を行う拠点として神奈川（横浜）、長崎、新潟、兵庫（神戸）の開港と、江戸・大坂の市場開放が定められました。それ以前の日米和親条約で開港されていたのは下田と箱館でしたが、修好通商条約による横浜の開港に伴い、下田の港は閉鎖されることになりました。
問3	答え 1 無勅許での条約調印や将軍継嗣問題への反対派を排除しようとしたが、後に自身が暗殺される一因となった。	井伊直弼は、勅許を得ないまま日米修好通商条約を結んだことや、第14代将軍を徳川慶福に決めたことへの批判を封じるために弾圧を行いました。しかし、この厳しい処置は強い反感を買い、1860年に水戸藩などの元浪士によって井伊が暗殺される桜田門外の変を招くことになりました。
問4	答え 1 イギリスがインドへ綿製品を、インドが清へアヘンを、清がイギリスへ茶や絹を売っていた。	イギリスは清から輸入する茶の代金として大量の銀が流出することを防ぐため、インドにアヘンを作らせて清に密輸させ、清から銀を回収する仕組みを構築しました。この歪んだ貿易構造がアヘン戦争の根本的な原因となりました。
問5	答え 1 薪水給与令	アヘン戦争での清の敗北を知った江戸幕府は、イギリスなどの強大な軍力を持つ西洋列強との武力衝突を避ける必要があると判断しました。そのため、それまでの方針であった異国船打払令を撤回し、漂着した外国船に対して薪（燃料）や水、食料を供給して穏やかに退去させる「薪水給与令（天保の薪水給与令）」を出し、対外政策を一時的に和らげました。
問6	答え 1 イギリスが輸入する茶の代金として支払う銀が不足し、その回収のためにアヘンを密輸した。	当時のイギリスは清から大量の茶を輸入していましたが、清に売れるものがないため大量の銀が清へ流出していました。この貿易赤字を解消するため、イギリスは植民地のインドで生産させたアヘンを清に密輸し、茶の代金として支払った銀を回収する「三角貿易」の仕組みを作りました。清がこのアヘンを厳しく取り締まったことが、アヘン戦争の直接のきっかけとなりました。
問7	答え 1 欧米諸国で需要が高まっていた生糸を確保するため、農村では養蚕や製糸業が盛んになった。	当時、ヨーロッパでは蚕の病気が流行してシルクの原料が不足しており、日本産の生糸に対して強い需要がありました。これに応える形で、信州（長野県）や上野（群馬県）などの農村部では、輸出用の生糸を作るための養蚕や、繭から糸を取り出す製糸業が急速に発展しました。これが後の明治政府による富国強兵・殖産興業政策における、外貨獲得の重要な基盤となりました。
問8	答え 2 大老の井伊直弼が、天皇の許可（勅許）を得ないまま日米修好通商条約を締結し、反対派を安政の大獄で厳しく処罰したことに反発が高まったため。	1858年に大老の井伊直弼は、天皇の許可を得ずに日米修好通商条約を締結しました。これに対して反対の声が上がると、井伊は「安政の大獄」で反対派の武士や公家を厳しく弾圧しました。この強権的な手法に対する激しい怒りが、1860年の桜田門外の変という暗殺事件を引き起こす要因となりました。
問9	答え 1 反射炉	幕末、欧米列強の進出に対抗するため、日本各地の有力な藩は軍備の近代化を急ぎました。従来の青銅製よりも強力な鉄製の火砲を作るためには、鉄を高温で溶かす高度な技術が必要であり、そのために建設されたのが反射炉です。特に佐賀藩（肥前藩）や薩摩藩、江戸幕府による葦山（静岡県）のものが有名です。
問10	答え 1 尊王攘夷	ペリー来航以降、幕府が天皇の許しを得ずに条約を締結したことへの反発から、天皇を敬う「尊王」と、外国勢力を撃退する「攘夷」が結びついた思想が広まりました。伊藤博文などの長州藩の志士たちは、当初はこの思想に基づき、イギリス公使館を焼き討ちにするなどの激しい行動に出ましたが、後に海外の進んだ実情を知ることで、開国と近代化による国づくりへと方針を転換しました。
問11	答え 1 アヘン	イギリスは当初、中国から茶や絹を大量に輸入していましたが、中国側がイギリス製品をあまり必要としなかったため、イギリスから中国へ大量の銀が流出していました。これを打開するため、イギリスは植民地であるインドでアヘンを栽培させ、それを中国へ密輸出させることで、代金として中国から銀を回収する仕組み（三角貿易）を構築しました。
問12	答え 1 自国の判断で輸入品に高い税率をかけることができず、安価な外国製品の流入から国内産業を守ることが難しくなった	関税自主権がない状態とは、輸入品にかかる税率（関税）を相手国との協議で決めなければならない、あるいは相手国の意向に従わなければならない状況を指します。これにより、イギリスやアメリカから安価な綿製品などが大量に流入した際、高い関税をかけて防ぐことができず、日本の伝統的な手工業が大きな打撃を受ける要因となりました。